３－２　旧吉野川における耐震対策

朔望平均満潮位（堰湛水位）+1.0mより地盤高が低く、沈下後の堤防高が朔望平均満潮位（堰湛水位）+1.0mより低くなる区間において対策工を実施しています。

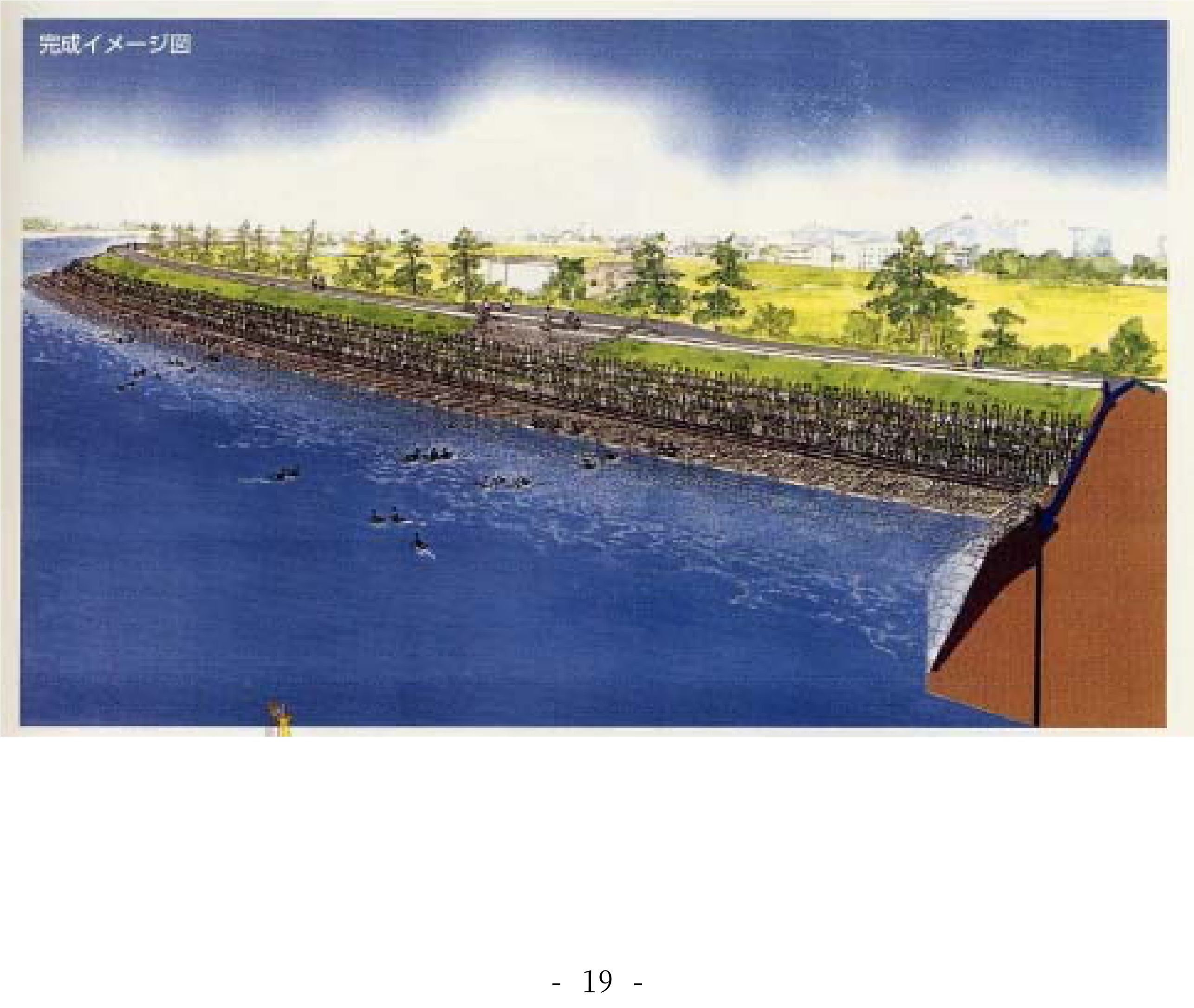
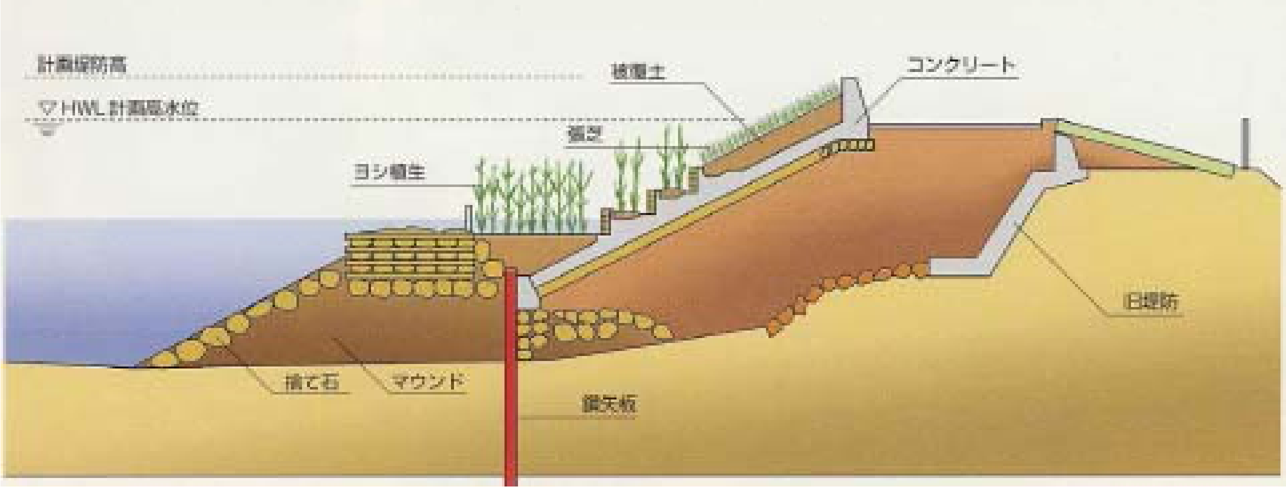
旧吉野川における対策は、鋼矢板を地中に打設し地盤のすべりに対する抵抗力を向上させる工法で実施してきています。

旧吉野川近傍の地盤高

旧吉野川近傍は、朔望平均満潮位＋１．０m以下の土地が広範に広がっている。

対策工法イメージ

完成イメージ図



標準断面